

画竜点睛

みなさんは「画竜点睛」という言葉を聞いたことがありますか。「がりょうてんせい」と読みます。「画竜」は絵に描いた竜という意味です。「点睛」の「睛」という漢字は「晴れる」に似ていますが、瞳という意味の漢字です。「点睛」とは瞳を画くという意味です。つまり、「画竜点睛」とは「絵に描かれた竜に瞳を入れる」ということになります。では、その意味はというと「最後に大切な部分に手を加えて仕上げをすること」となります。

では、なぜそのような意味になったのかということです。中国の歴代名画記という本にその言葉の逸話が載っているそうです。こんな内容です。

中国の南北朝の時代、南朝の梁に「張僧繇(ちょうそうよう)」という名画家がいました。あるとき彼は、金陵(現在の南京)の安楽寺の壁に竜を描くことを頼まれ、4匹の白い竜の図を描きました。その竜は、今にも壁を突き破って天にも昇りそうな勢いがあり、見る人すべてが息を飲みましたが、不思議なことに、瞳が描き入れられていませんでした。不思議に思った人々が彼に理由を尋ねると、彼は、「もし瞳を入れたら、竜が天に飛んでいってしまうからだ。」と言いました。しかし、人々は信じる事ができず、是非、瞳を描き入れるようにと彼に求めました。そこで仕方なく彼が4匹のうち2匹に瞳を入れると、たちまち稲妻が走って、壁が壊れ、2匹の竜は雲に乗って天に飛び去ってしまったのです。あとには瞳を入れなかった2匹の竜だけが残ったそうです。

という逸話です。このような逸話から「画竜点睛とは最後に大切な部分に手を加えて仕上げをする」と意味になったようです。「画竜点睛」という言葉は「画竜点睛を欠く」という使われ方もします。「よくできていても、肝心なところがかけているために、完全といえないこと」という意味になります。

さて、平成25年度にみんなが学校に登校する日は後何日か知っていますか、今日も含めて38日間です。その間に、3年生はいよいよ受験、そして、それが終了すると卒業式に、また、1,2年生も学年のまとめの時期、そして進級となります。

絵に描かれた竜に目が入れられて、天に昇っていったようにみなさんも、今まで画いてきた絵に目を入れないといけません。その目、つまり一番重要なところは人によって異なるでしょう。3年生にとっては今まで積み上げてきた努力で、最後の自分の進路を決定するのが最大の目標でしょうから、そのための「竜の目」は何でしょうか。やはり、こつこつと受験に対して、心技体を整えることしかないでしょう。地道に「心を集中させ、学力を上げ、体調管理にも気を配る」、そうした小さな積み上げが竜の目ではないかと思います。1,2年生もそれぞれに最後の最後の肝心なところを自分なりに見つけて、学年の最後の仕上げという気持ちでこれからの38日間を過ごしてほしいと思います。

みなさんの「画竜点睛」を期待しています。